

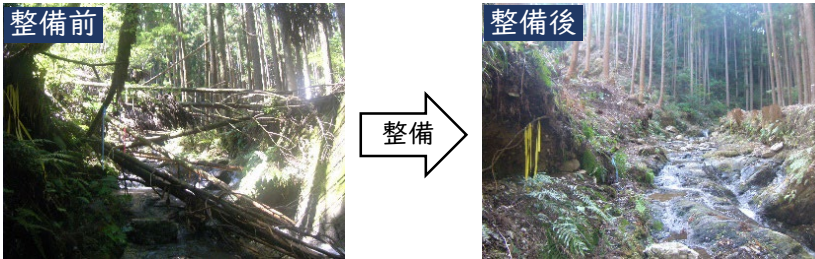
- ◆災害に強い森林づくりとして対応すべき箇所は未だ多く存在 ※三重県全域の流木発生危険流域 約1,500流域（推定）
- ◆子どもの頃に森林とふれあう機会が多かった人ほど、森林に積極的に関わっていきたいと考える傾向が明らか ※森林教育の継続

## 第2期（R元～R5）の成果

### 【災害に強い森林づくり】

※数値はR4までの実績値

- ・災害緩衝林整備 122箇所（県）
- ・航空レーザ測量による森林情報整備 約187千ha（県）
- ・ライフラインを守る事前伐採 10市町
- ・集落周辺の危険木伐採 18市町
- ・荒廃した里山・竹林の再生 11市町



### 【県民全体で森林を支える社会づくり】

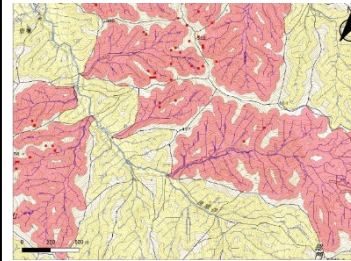
- ・みえ森づくりサポートセンターの運営（県）
- ・三重県民の森「みえ森林教育ステーション」の整備（県）
- ・学校等における森林教育の実施 23市町
- ・森林教育が行える場の整備 21市町
- ・森林の総合利用のための整備 18市町



## 第3期（R6～R10）の必要性

### 【災害に強い森林づくり】

航空レーザ測量解析結果



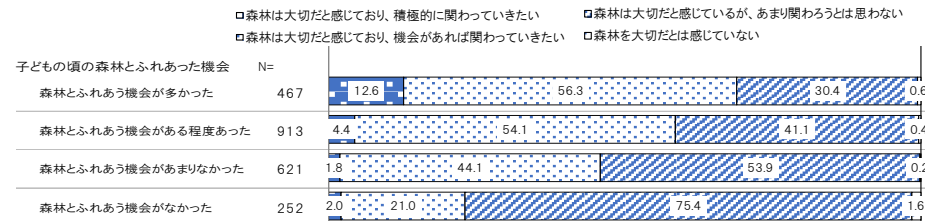
赤：流木発生の危険性が高い流域  
黄：流木発生の危険性が少ない流域

- ・航空レーザ測量の既存解析結果から流木発生の危険性が高い箇所の抽出を行ったところ、県内全域で約1,500流域が流木発生の危険がある流域として推定された
- ・災害緩衝林整備は平成26年度から10年間で300カ所（予定）の整備に留まっており、引き続き対策を進めることが必要

➡ 「災害に強い森林づくり」のさらなる推進

### 【県民全体で森林を支える社会づくり】

県民意識調査 子どもの頃に森林とふれあった機会と森林に関わっていきたいと考える傾向との関係



- ・子どもの頃に森林とふれあう機会が多かった人ほど、森林に積極的に関わっていきたいと考える傾向が明らか
- ・令和13年開催の全国植樹祭招致に向けた気運醸成

➡ 森林教育を通じた森林を支える社会づくりの継続

## 「三重の森林づくり基本計画2019」の目標（公益的機能維持増進森林整備面積 令和10年度 ⇒ 30,300ha）

- ◆ 森林の公益的機能の発揮をめざして、環境林を中心に公的主体（県・市町）によって進める森林整備の面積を目標値として設定
- ◆ 市町が実施する森林環境譲与税を活用した森林整備面積は、目標達成に向けて重要なファクターとなっている

### 公益的機能維持増進森林整備面積の目標達成に向けた森林環境譲与税の活用

#### 市町における森林整備への譲与税の活用

区分	R 4 (実績)	R 5 (想定)	R 6～10 (想定)
市町への譲与額 (百万円)	1,046	1,046	1,284
森林整備への 活用率 (%)	70.5%	80.0%	80.0%
森林整備への 活用額 (百万円)	737	837	1,027

- ・ 令和4年度の森林整備への譲与税の活用率は約70%
- ・ 令和6～10年度の市町活用見込み調査では約80%が森林整備に活用される見込み

※調査における森林整備の平均事業費 **505千円/ha**

- ◆ 譲与税を活用した森林整備の見込み  
令和5年度 **1,660 ha**  
令和6年度以降 **2,030 ha**

目標達成に  
向けた検証

#### 公益的機能維持増進森林整備面積の見込み (単位: ha)

区分	R 4 (実績)	R 5 (想定)	R 6 (想定)	～	R 10 (想定)
譲与税以外	1,560	1,500	1,500	～	1,500
<b>譲与税活用</b>	<b>701</b>	<b>1,660</b>	<b>2,030</b>	～	<b>2,030</b>
単年度合計	2,260	3,160	3,530	～	3,530
実績見込 (累計)	7,518	10,678	14,208	～	28,328
目標値 (累計)	7,700	10,900	14,780	～	30,300
<b>目標値との差</b>	<b>-182</b>	<b>-222</b>	<b>-572</b>	～	<b>-1,972</b>

- ◆ 譲与税以外の森林整備（治山事業、災害緩衝林整備事業等）については近年の実施状況から面積増加は厳しい状況

- ◆ 市町における譲与税を活用した森林整備をより一層推進していくことで令和10年度の目標達成に寄与

- ◆ 「三重の森林づくり基本計画2019」の目標達成に向け、これまで以上に、森林環境譲与税を活用した公益的機能維持増進森林の整備を進めていく必要がある。

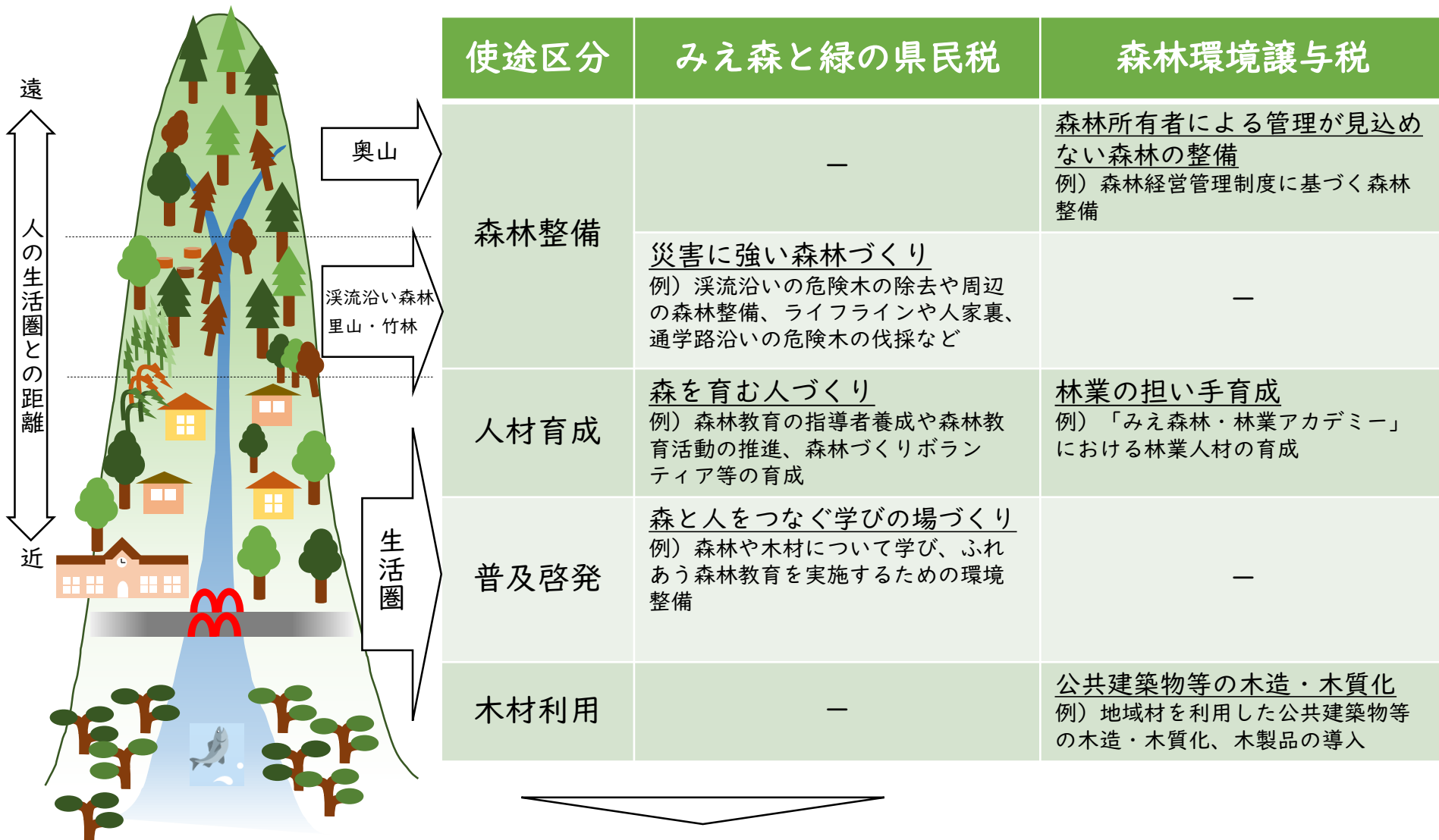
## 活用状況（令和元年度～令和4年度）

※金額は、R1～R4の合計額（千円）

用途区分	みえ森と緑の県民税（約43億円）		森林環境譲与税（約25億円）								
森林整備	<b>■災害に強い森林づくり</b> （対策1）土砂や流木による被害を出さない森林づくり 渓流沿いの危険木の除去や周辺の森林整備など		<b>■森林所有者による管理が見込めない森林の整備</b> （県）「みえ森林経営管理支援センター」を通じた市町支援など （市町）市町による林業経営に適さない森林の公的な整備など								
	<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>1,851,288</td> <td>市町</td> <td>766,308</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害緩衝林の整備：122箇所</li> <li>・流域の防災機能の強化を図る森林整備：13市町</li> </ul>	県	1,851,288	市町	766,308		<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>141,215</td> <td>市町</td> <td>1,623,465</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林所有者への意向調査の実施：20市町（42,716ha）</li> <li>・市町が行う林業経営に適さない森林の整備：8市町（405ha）</li> </ul>	県	141,215	市町	1,623,465
県	1,851,288	市町	766,308								
県	141,215	市町	1,623,465								
人材育成	<b>（対策2）暮らしに身近な森林づくり</b> ライフラインや人家裏、通学路沿いの危険木の伐採など		<b>■林業の担い手育成</b> （県）「みえ森林・林業アカデミー」における林業人材の育成など （市町）林業事業体における林業従事者の育成など								
	<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>0</td> <td>市町</td> <td>712,726</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフライン沿いの危険木の伐採：10市町</li> <li>・集落周辺の危険木の伐採：18市町</li> </ul>	県	0	市町	712,726		<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>320,652</td> <td>市町</td> <td>47,475</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みえ森林・林業アカデミー基本コース修了者：77人</li> <li>・林業の現場作業員を対象とした安全講習会の開催など</li> </ul>	県	320,652	市町	47,475
県	0	市町	712,726								
県	320,652	市町	47,475								
普及啓発 ・ 木材利用	<b>■森を育む人づくり</b> （対策3）森を育む人づくり 森林教育の指導者養成や森林教育活動の推進、森林づくりボランティア等の育成など		<b>■公共建築物等の木造・木質化（木材利用）</b> （県・市町）地域材を利用した公共建築物等の木造・木質化、木製品の導入など								
	<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>161,515</td> <td>市町</td> <td>87,367</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林教育に取り組む指導者の養成：466人</li> <li>・学校等における森林教育の実施：23市町</li> </ul>	県	161,515	市町	87,367		<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>13,674</td> <td>市町</td> <td>303,657</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造公共建築物の建設（みえ森林・林業アカデミー棟など）</li> <li>・地域材を活用して新築する住宅への補助など</li> </ul>	県	13,674	市町	303,657
県	161,515	市町	87,367								
県	13,674	市町	303,657								
普及啓発	<b>（対策4）森と人をつなぐ学びの場づくり</b> 子どもたちの森林環境教育・木育や野外体験に活用できる場の整備など		<b>■森と人をつなぐ学びの場づくり（普及啓発）</b> （対策5）地域の身近な水や緑の環境づくり 森林公園などにおける木造休憩施設の整備など								
	<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>93,035</td> <td>市町</td> <td>349,716</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林教育が行える場の整備：21市町</li> <li>・多様な主体が森林とふれあう場の創出：12市町</li> </ul>	県	93,035	市町	349,716		<table border="1"> <tr> <td>県</td> <td>58,119</td> <td>市町</td> <td>170,786</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察ツアー等の開催：30回（延べ参加者721人）</li> <li>・森林を総合利用するための環境整備：18市町</li> </ul>	県	58,119	市町	170,786
県	93,035	市町	349,716								
県	58,119	市町	170,786								

## 【掲載イメージ】

三重県では、「みえ森と緑の県民税」と「森林環境譲与税」の用途や目的を以下のとおり区分し、それぞれを有効活用して三重の森林づくりを進めています。



「みえ森と緑の県民税」と「森林環境譲与税」が一体となった三重の森林づくり

【現状】 令和4年度「三重の森林づくりに関する県民意識調査」では、認知度が19.5%

## 分析

同上県民意識調査結果より

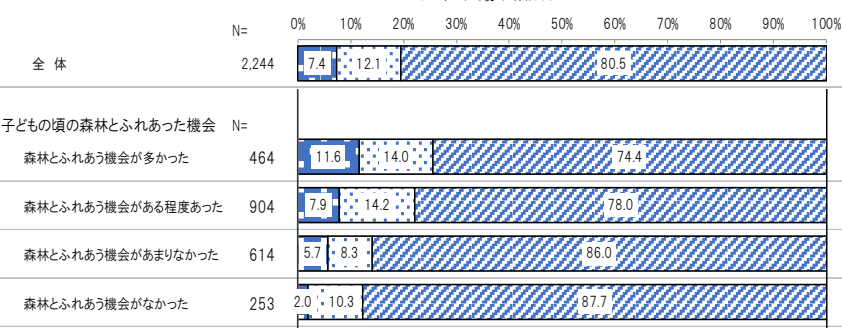
### 【分析①】

- ・森林づくりの情報を目にする媒体の順位  
1位：テレビ、2位：県広報誌、3位：新聞  
4位：インターネットホームページ、5位：ラジオ

### 【分析②】

- ・子どもの頃に森林とふれあった機会が多いほど認知度が高い傾向

### みえ森と緑の県民税の認知度



## 対応方針

## ◇広報実施スケジュール

○は継続取組、◎は新規取組

時期	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
テレビ ラジオ					◎CBC テレビ		◎三重 テレビ		◎三重 テレビ	
紙媒体					◎新聞 広告		○県政 だより			
WEB					◎TVer 15秒CM放送				◎ホームページ 新設	
展示 イベント 講座										

実施内容詳細:

- ◎FM三重 ラジオ番組 (7月)
- ◎市町広報掲載 (7月)
- ◎FM三重コラボうちわ配布 (キャンプ場等にて) (7月)
- ◎新リーフレット作成・各所配布 (12月)
- ◎自治会回覧板にて新リーフレット回覧 (12月)
- コンビニ・イオン店舗・県庁舎でのチラシ配架・ポスター掲出 (6月)
- ◇OR4成果報告書の配布 (10月)
- ◎SNS情報発信 (Facebook みんなで支える森林づくり・三重) (7月)
- ◎県民ホール デジタル広告 (7月)
- アウトドア体験イベント (7月)
- アウトドア体験イベント (8月)
- ◎アウトドア体験イベント (9月)
- 講座 (9月)
- 講座 (10月)
- アウトドア体験イベント (10月)
- アウトドア体験イベント (11月)
- 講座 (11月)
- 講座 (12月)
- アウトドア体験イベント (12月)
- アウトドア体験イベント (1月)
- アウトドア体験イベント (2月)
- アウトドア体験イベント (3月)
- 県庁舎パネル展示 (7月)

【短期的】 テレビ・ラジオ、新聞・広報、WEB等による周知、アウトドアブームを捉えた周知

【長期的】 子どもの頃から森林にふれあえる機会を設けることが認知度向上につながるため、森林教育に注力